

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

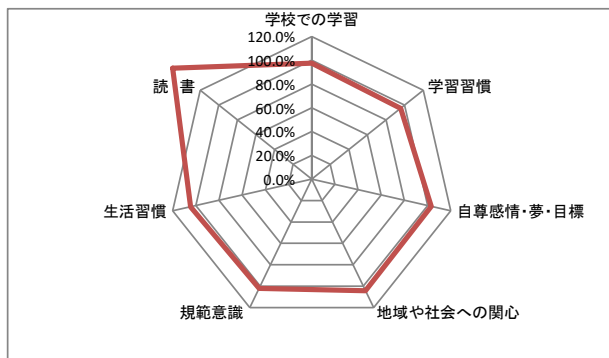
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	・特に話す・聞く能力を問う内容についての正答率が高かった。また、無解答0の問題も14問中6問で無解答率も低かった。ただ、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項に課題があり、言語についての知識・理解・技能を高めていく必要がある。	上回っている
数学	・数と式、数学的な見方や考え方に関する問題においては、全国平均正答率をやや上回っていた。ただ、数学的な技能、数量や図形などについての知識・理解に関する問題に課題がある。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・早寝早起き、朝ごはんや家の人と約束を守るといった生活習慣や規範意識は、全国平均を上回っている。自分には、よいところがあるという自尊感情や将来の夢、目標を持てる生徒の割合が年々高くなっている。また、平日1日当たり1時間以上読書をしている生徒の割合は高く、全国平均を大きく上回っている。

・土曜日や日曜日など学校が休みの日における勉強は概ね良好であるが、学校の授業以外に、平日に1時間以上家庭学習をしている生徒の割合が全国平均より低く、放課後の時間の使い方に課題がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・定期考査前を中心に、教育相談と並行しながら、学習をする時間(黒中学力タイム)を引き続き、実施する。

・基礎的な内容の問題を朝自習や考査前の予想問題として作成し、実施する。その際、定期考査等で評価をする。

・夏休みや冬休み、春休みにも副教材やプリント等の課題を与え、学年の段階に応じた休業中の学習習慣を身に付けさせる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・5教科を中心に課題(宿題)や個人で選択できる課題を与えて、平日における学習習慣を身に付けさせる。

・連絡ノートやファイル、学習計画表などを活用し、生徒の生活や学習の様子を把握することで、家庭学習に対する支援や助言を行う。また、ご家庭にも、保護者会や通信等で調査結果や状況をお知らせし、支援をお願いする。